

「2015 年度 事業報告」

1. 2015 年度事業報告について

早稲田大学男女共同参画推進委員会は、2008 年 12 月に発表した 2017 年度までの「男女共同参画基本計画」および 2012 年に大学が発表した 2032 年度までの「Waseda Vision 150」の実現に向けて、次のとおり 2015 年度の事業を実施した。

2015 年度の事業の中で特筆すべき点としては、2015 年 8 月に成立した「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（以下、女性活躍推進法）」に基づき、2016 年度からの 5 年間の一般事業主行動計画を策定し、任期の定めのない女性教員採用比率の向上と女性職員の管理職比率の向上を目標に掲げたことが挙げられる。

その他は、研究者の妊娠・育児期の研究活動の継続を支援することを目的とした「ライフイベントに係る研究支援」制度を研究推進部に協力し新設したこと、グローバルエデュケーションセンター（以下、GEC）に、全学オープン科目として、WSC メンバーズ基金寄附講座「ダイバーシティ・男女共同参画を学ぶ」を開講し、報告書を作成したこと、理工系の女子学生・女性研究者のキャリア形成支援や交流を目的とした事業として「Rikho ティータイムシンポジウム」を企画し、第 1 回目を開催したこと、本学の取り組みを紹介する英語併記のリーフレットを作成したこと、施設面では、所沢キャンパスに、本学では 4 か所目となる授乳兼搾乳室を設置したことが挙げられる。

また、「Waseda Vision 150」の学生コンペティションで提案があった LGBT 学生支援のための「学生ダイバーシティセンター」設置に向けて、学生部等関係箇所と協議を重ねた。

2. 2015 年度の具体的事業報告

1) 女性専任教員比率の向上

① 2015 年 8 月に成立した女性活躍推進法を受け、2016 年度から 2020 年度までの 5 年間の「一般事業主行動計画」を立案し、理事会に提案、策定に至った。任期の定めのない教員の女性採用比率の 5 年間の平均を大学全体で 20%以上とする目標を立て、教員人事を掌る学院、附属校等に箇所ごとの女性採用目標値の設定を依頼した（2016 年 4 月 23 日期限）。

2) 女性専任職員および女性管理職比率の向上

① 2015 年 8 月に成立した女性活躍推進法を受け、2016 年度から 2020 年度までの 5 年間の「一般事業主行動計画」を策定し、5 年後の女性職員管理職比率を 15%以上とする目標を立てた。

② 2014 年度より実施している「ダイバーシティと女性職員の一層の活躍を実現するための研修プログラム」を実施した。その中の中堅女性職員を対象とした「ライフタイム・キャリア研修」は、2015 年度は中止し、男女共同参画推進委員会および各部会に所属する女性職員による WG（10 月 20 日開催）で課題を確認し、2016 年度の実施に向け人事課と検討を重ねた。（2015 年度実施分は以下のとおり）

実施日	名称	対象	参加人数
2015/07/7	職場復帰後セミナー	育休から復帰した女性専任職員	6 名
2015/07/27	ダイバーシティマネジメント研修	管理職	52 名
2015/07/30	ダイバーシティマネジメント研修	管理職	53 名
2015/08/07	ダイバーシティマネジメント研修	管理職	54 名

- ③ 女性に限らず、子育て中の職員が働きやすい職場環境づくりを推進するため、人事課と協力し、NPO 法人コジカラ・ニッポン代表理事の川島高之さんを講師に迎え、管理職向けのイクボス（育児する（育児を応援する）ボス）に関するセミナーを開催した。

実施日	名称	対象	参加人数
2015/08/24	管理職セミナー 「イクボスが職場を変える」	管理職	105名

3) 男女共同参画推進に対する教職員の意識向上

- ① 新規採用の教職員を対象とした以下の研修に、男女共同参画の講義を盛り込み、男女共同参画推進への理解を深め、意識の共有化を図った。

○新入教職員への研修

研修実施日	研修名	場所	対象者	講師
2015/04/02	新任教員セミナー	早稲田キャンパス3号館501教室	119名	大野理事
2015/04/03	新入職員研修 (新卒・既卒)	早稲田キャンパス大隈会館会議室	18名	藤本調査役
2015/10/28	新入職員研修 (既卒)	早稲田キャンパス大隈会館会議室	11名	藤本調査役

- ② 教職員・学生・一般向けの公開講座や講演会、啓発セミナー等を以下のとおり開催。多くの本学構成員に、男女共同参画、ダイバーシティ、ジェンダー、ワークライフバランスなどについて学ぶ機会を提供し、本学の男女共同参画の取り組みへの理解を促した。また、開催報告をウェブサイトに掲出したほか、一部については、収録動画を授業支援システム Course N@vi で配信するなど、当日参加できなかった者への配慮も行った。

○シンポジウム・講演会等の開催

開催日／内容	演題等	対象	参加人数	開催形態
2015/05/16 公開講座	GEC設置科目「科学とジェンダー」 科学史とジェンダー～科学はジェンダー中立か～ (小川真理子三重大学特任教授)	学生・教職員・一般	14名	共催
2015/05/28 講演会	「女性差別撤廃条約批准30年-国際社会に対する日本の約束-」(林陽子弁護士/国連女性差別撤廃委員会委員長)	学生・教職員・一般	236名	共催
2015/06/13 公開講座	GEC設置科目「科学とジェンダー」～理系研究者のワークライフバランスと女性研究者支援(小館亮之津田塾大学教授)	学生・教職員・一般	19名	共催
2015/06/22 トークセッション	「世界が注目!ワークライフバランス～専業主夫にキャリア女子、多様化する生き方～」(田中俊之武蔵大学教授)	学生・教職員・一般	29名	後援
2015/06/30 講演会	「ユネスコ提唱するインクルーシブ教育とダイバーシティ」(黒田一雄国際学術院教授)	学生・教職員・一般	100名	主催
2015/07/03 公開講座	GEC設置科目「WSCメンバーズ基金寄附講座『ダイバーシティ・男女共同参画を学ぶ』「働くを見つめ、生きるを考え、まちを信じる」(船木成記さん尼崎市顧問)	学生・教職員・一般	89名	共催
2015/07/10 公開講座	GEC設置科目「女性・しごと・ライフデザイン」 企業における女性活躍推進とダイバーシティ(阿佐見綾香さん(大手広告代理店勤務))	学生・教職員・一般	70名	共催
2015/10/22	世界が注目!ワークライフバランス～働き過ぎの国”日	学生・教職員	54名	後援

トークセッション	本、そして海外におけるこれからの働き方～ (小室淑恵さん (株) ワークライフバランス代表取締役)	員・一般		
2015/10/23 講演会	長いものに巻かれない～ダイバーシティのすすめ (渥美由喜さん 厚労省政策評価有識者会議 委員)	学生・教職 員・一般	203名	主催
2015/11/14 トークセッション・ ワークショップ	「LGBT」って? 「アライ」って?～あなたと私 でつくるワセダ～ (杉山文野さん NPO 法人東京レインボープライド代 表理事ほか)	学生・教職 員・一般	40名	後援
2015/11/28 シンポジウム	「卒業生が語る: 早稲田でジェンダーを学び、今、 社会人として」 (藤田裕喜さん NPO レインボーア クション代表理事 ほか)	学生・教職 員・一般	30名	後援
2015/12/01 ラウンドテーブル	「大学のダイバーシティを考える」	学生・教職 員・一般	24名	主催
2015/12/02 トークセッション	国境を超えるレインボーフラッグ～21世紀のLGBTを考 える～ (アムネステイインターナショナル)	学生・教職 員・一般	84名	共催
主催 (共催) 9回・後援4回 計13回		計(前年比)	884名	(+548 名)

4) ライフイベントサポートシステムの改善と拡充

- ① ワークライフバランス・サポートセンター(以下、サポートセンター)では、学生・教職員を対象とした交流事業を実施した。

相談事業の休止に伴い、ウェブサイト上にライフイベントとの両立に関する情報(両立支援施設の利用方法や制度に関する問い合わせ先、キャリア・心とからだ・法律に関する相談窓口)を案内する「両立支援ポータル」を開設した。関係箇所との連携のもと、必要な情報を対象者に届けた。専用メールを設置し、電話とメールでの問い合わせ対応できる体制を整え、学生・教職員の問い合わせに対応した。

交流事業では、ワークライフバランスを柱とした講座や交流会を早稲田・西早稲田キャンパスで開催し、講座・講演会は、できる限り CourseN@vi の「男女共同参画推進講座」として配信することで、必要な情報を必要な対象者に届けられるような仕組みづくりをおこなった。新規企画として、キャリア初期研究者支援を目的としたランチ会やシンポジウムを企画立案し、文学大学院・理工学術院と連携をとり開催、継続的な支援をおこなうこととした。2014年度から開催している職員対象の「両立ランチ会」は、早稲田キャンパスだけでなく西早稲田キャンパスで開催した。その他、他箇所との連携を含めたライフイベントとの両立を目的とした各種イベントは以下のとおりである。

○交流事業

開催日/ 内容	演題等	対象	参加 人数	開催 形態
2015/06/03 交流会	両立ランチ会 (早稲田) ～私の気分転換	専任職員・ 常勤嘱託職員	21名	主催
2015/6/24 交流会	両立ランチ会 (早稲田) ～頼れる人を探そう	専任職員・ 常勤嘱託職員	11名	主催
2015/7/15 交流会	両立ランチ会 (早稲田) ～早く帰るヒケツを語ろう	専任職員・ 常勤嘱託職員	9名	主催
2015/7/28 交流会	両立ランチ会 (西早稲田) ～早く帰るヒケツを語ろう	専任職員・ 常勤嘱託職員	6名	主催
2015/7/30 交流会	若手研究者のランチ会 (戸山)	若手研究者	8名	後援
2015/9/16 交流会	両立ランチ会 (早稲田) ～どうしてる? 休日出勤の家庭のやりくり	専任職員・ 常勤嘱託職員	11名	主催

2015/10/13 交流会	両立ランチ会 ～育児や介護と仕事のバランス	専任職員・ 常勤嘱託職員	8名	主催
2015/10/28 講座	組織の中でうまく自分を活かす方法 ～ストレスマネジメント力を身につけよう (植田健太さん Office CPSR 臨床心理士・ 社労士事務所 代表)	学生・教職員	35名	主催
2015/11/10 交流会	両立ランチ会 ～家事・育児・介護の家庭内役割分担～	専任職員・ 常勤嘱託職員	5名	主催
2014/11/13 講座	世界一均等な北欧「フィンランド」より ～仕事も育児もプライベートも、だれもが自分 らしくあるために (マルクス・コッコ氏・堀内郁喜子氏 フィ ンランド大使館)	学生・教職員・ 一般	134名	主催
2015/12/1 交流会	両立ランチ会 ～父親同士語ろう会	専任職員・ 常勤嘱託職員	7名	主催
2015/12/10 交流会	第1回 Rikoh ティータイムシンポジウム	理工系女子学 生・女性研究者	32名	主催
2015/12/16 講座	仕事と介護の両立 ～必ず考える時がくる家族の介護 (和賀井哲代租氏 NPO 法人やすらぎ理事長)	学生・教職員	23名	主催
2016/1/18 講座	ワーク・ライフ・バランスセミナー	学生・教職員・ 一般	10名	後援
2016/1/19 交流会	両立ランチ会 ～「小1の壁」の乗り越え方	専任職員・ 常勤嘱託職員	9名	主催
主催13回・後援2回 計15回		計(前年比)	329名 (+9名)	

②所沢キャンパス 100 号館 3 階に授乳・搾乳室を新設し、2015 年秋学期 (9 月 21 日付) より利用を開始した。所沢総合事務センターの協力のもと、小手指―所沢キャンパス間の連絡バスおよび所沢キャンパス内に「授乳・搾乳室のご案内」ポスター掲示をおこなうとともに、人間科学学術院 e スクール事務所の協力を得て、周知、案内を行った。

③主要 4 キャンパス授乳・搾乳室設置について MyWaseda より案内した。ポスター「授乳・搾乳室のご案内」を日英併記で新規に作成し、キャンパス各所に掲示した。

④授乳・搾乳室の利用について、早稲田キャンパス 10 号館は、2015 年度前半は定期的な利用者が 5 名、後半も 2 名の利用があった。利用者は、主に大学院生や非常勤講師である。在学生や卒業生、職員等が乳幼児連れでの来学した際に利用するケースが増加している。来校理由は、休学中の指導教員や休職中の職場への挨拶、論文指導、学内での催しや式典への参加などである。

戸山キャンパスの授乳・搾乳室は、無人のため正確な利用者数の把握は難しいが、設置 2015 年度から設置している利用者簿とノートから、定期的な利用者があることが把握できる。開室時間が 8 時 30 分から 21 時 30 分までと長いことや土曜に開室しているということから利用に関する問い合わせも多く寄せられている。

西早稲田キャンパス 60 号館は、今年度、定期利用はなかったが、理工学術院の先生方からのご案内により、一時利用が増えた。研究室への訪問時や博士論文指導を受けるためのスペース、家族が子どもと待機する目的での利用もあった。

所沢キャンパス 100 号館は、所沢キャンパス祭の実行委員の学生の申し込みにより一般の方のご利用があった。加えて e スクールの学生より、土も含めた一時利用があった。e スクールの学生から「今までは授乳ケープで対応していた、社会人が学ぶこと、乳児を持つ母親が学ぶこと、多様な学生が学ぶ早稲田大学ならではの支援だと思う」との感謝の言葉が寄せられた。また、2016 年度の定期利用の申し込みが 2 名届いた。

- ⑤ 『2008～2014 年度ワークライフバランス・サポートセンター相談活動報告書』を作成し、Web サイト上で公表した。

5) キャリア初期研究者への支援

- ① 交流事業でロールモデルとなる理工系研究者・技術者を講師とし、理工学術院およびキャリアセンターの協力を得て「Rikoh ティータイムシンポジウム」を開催し、ロールモデルに触れる機会を設けるとともに、参加者同士の交流の場とした。
- ② 妊娠、育児期の研究活動の継続のために研究支援員を雇用できる「ライフイベントに係る研究支援」制度の新設および 2016 年度からの支援開始に向け、研究推進部研究支援課と検討を重ね、2016 年 2 月に公募を開始した。

	応募者数	採用者数
第 1 回 (2016 年 2 月公募)	男性 3 名 女性 6 名	男性 3 名 女性 6 名
合計	9 名	9 名

6) 女子学生の就職・進学支援

- ① 2015 年度春学期に、GEC 設置科目として、に WSC メンバーズ基金寄附講座「ダイバーシティ・男女共同参画を学ぶ」(全 15 回)を新たに開講し、卒業生を含む 19 名のゲストスピーカーを学生のロールモデルも兼ねて招いた。
- ② 2015 年度も、GEC 設置の男女共同参画への導入講座、「女性・しごと・ライフデザイン」「ウーマン・キャリアクリエイト講座」を継続して開講し、理工 3 研究科および GEC の共通科目として「科学とジェンダー」を開講した。

○関連科目の開講・登録者数

科目名/担当教員	学期	2015 年度	(前年比)
WSC メンバーズ基金寄附講座「ダイバーシティ・男女共同参画を考える」/矢口徹也ほか	春学期	82 名	—
女性・しごと・ライフデザイン/矢口徹也ほか	春学期	43 名	(△1 名)
科学とジェンダー/石井道子ほか	春学期	20 名*	(0 名)
ウーマン・キャリアクリエイト講座/並木秀男ほか	秋学期	186 名	(△7 名)

*科学とジェンダーの登録者数は学部学生と理工 3 研究科の登録者数を合わせた数

- ③ 2015 年 10 月には、学生の進学・就職支援のため、稲門女性ネットワーク (TWN) ・キャリアセンターが主催した、キャリア支援セミナー「第 11 回自分の未来を発見しよう～OG と考える「これが私の生きる道」～」に協力した。

7) 人権・ジェンダー・労働に関わる教育・研究の推進

- ① 関連科目のデータベース化と補完・強化すべき分野を検討し、2015 年度開講科目について、男女共同参画に関連するキーワードによる抽出作業を行い、ウェブサイトで科目を紹介した。
- ② GEC が設置する、新入生向けの導入講座、Course N@vi「わせだライフ ABC」に盛り込む男女共同参画に関するコンテンツについて、2016 年 1 月に再収録し提供した。
- ③ 授業、講演会・シンポジウム等の模様を収録し、男女共同参画推進室提供講座として、授業支援システム Course N@vi に配信した。
- ④ 2014 年度から始まった体育各部所属の学生向けのプログラム「早稲田アスリートプログラム」の動画を 2016 年度より配信するため、男女共同参画に関する部分の動画コンテンツを 2016 年 1 月に収録し提供した。

○オンデマンド授業

科目名／テーマ名／講師	2015年度 受講者数
わせだライブABC／男女共同参画とは何かを考えてみよう／川田元委員長	102名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 女性への大学教育の開放：早稲田大学の場合－彼女たちは彼女たちから始まった－ (2009年10月19日収録)	93名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 クメンによるワークライフバランス講座～ファザーリングが社会を変える！～ (2011年10月21日収録)	67名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 クメンによるワークライフバランス講座第2弾 これからの日本企業での働き方～ダイバーシティ・マネジメント実践術～ (2012年10月19日収録)	70名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 シンポジウム「大学における男女共同参画の現状と課題」 (2013年8月1日収録)	77名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 クメンによるワークライフバランス講座第3弾 「大人生活」を充実させるヒ・ケ・ツ～ライフ・ビジネス・ソシヤルの3つとも楽しもう～ (2014年11月7日収録)	140名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 「女子差別撤廃条約批准30年-国際社会に対する日本の約束-」 (2015年5月28日収録)	64名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 「ユネスコの提唱するインクルーシブ教育とダイバーシティ」 (2015年6月30日収録)	66名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 「世界一機会均等な北欧『フィンランド』より～仕事も育児もプライベートも、誰もが自分らしくあるために」 (2015年11月18日収録)	39名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 「2015年度WSCメンバーズ基金寄附講座『ダイバーシティ・男女共同参画を考える』 －はじめに－早稲田大学とダイバーシティ・男女共同参画」 (2015年4月10日収録)	38名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 「2015年度WSCメンバーズ基金寄附講座『ダイバーシティ・男女共同参画を考える』 －男女共同参画を法制度から理解する」 (2015年5月15日収録)	38名
〔男女共同参画推進室提供講座〕 「2015年度WSCメンバーズ基金寄附講座『ダイバーシティ・男女共同参画を考える』 －グローバル化、多様性の時代に大学で学ぶこと」 (2015年7月10日収録)	33名

※受講者数は、年間の延べ人数

8) 国内外の大学および研究機関との交流

- ① 男女共同参画に関連する学内のイベント（協賛・後援等を含む）について、ウェブサイトやニュースレターに開催報告を掲載する等学外に公開し、本学の取り組みを紹介した。
- ② ワークショップ・シンポジウム・講演会等への参加、情報収集・意見交換を次のとおり行った。
○参加講演会・シンポジウム等

開催日	主催者／交流先	演題／内容等	形態
2015/04/15	APRU	APRU Asia -Pacific Women in Leadership Core Group Teleconference Meeting	参加
2015/08/21	国立女性会館	シンポジウム 北京女性会議—あの時、今、そしてこれから (パネリスト：林陽子氏他)	参加
2015/10/16	日本私立大学連盟	私大連講演会 講師：江原由美子先生	参加
2015/12/03	国立女性会館	平成 27 年度大学等における男女共同参画推進セミナー	参加
2016/01/29	筑波大学	ダイバーシティ関連シンポジウム	参加
2016/02/25	京都産業大学	保育施設検討のための施設見学他	来訪

9) 長期的な展望にたつ男女共同参画の推進

- ① 2008 年 12 月に発表した中長期計画「男女共同参画基本計画」の実現、さらに、2012 年 11 月に発表した「Waseda Vision 150」の目標達成に向けて、2015 年度事業計画を実施するとともに、男女共同参画・ダイバーシティの推進 PJ と連携し、取り組みについて検討した。また、2014 年度の事業報告を作成し、ウェブサイト上で広く学内外に公表するとともに、その報告内容・実績を踏まえ、2016 年度事業計画を策定した。なお、事業の実施と計画立案にあたり、以下のとおり、委員会・部会等を開催した。

○会議等の開催状況

会議体名	開催数	開催日・回
委員会	3 回	6/23 第 24 回(第 4 期 7 回)、10/8 第 25 回(第 4 期 8 回)、2/8 第 26 回(第 5 期 1 回)※幹事会の開催なし
教育研修部会	2 回	5/14 第 29 回(第 4 期 4 回)、12/17 第 30 回(第 5 期 1 回)
制度環境部会	2 回	5/15 第 34 回(第 4 期 4 回)、12/21 第 35 回(第 5 期 1 回)
広報調査部会	3 回	5/22 第 35 回(第 4 期 5 回)、7/31 第 36 回(第 4 期 6 回)、10/30 第 37 回(第 5 期 1 回)、1/29 第 38 回(第 5 期 2 回)
ポートセンター部会	1 回	1/21 第 28 回(第 5 期 1 回)

- ② 2015 年度末の事務局体制は次のとおり、2014 年度末に相談員（非常勤嘱託）の任期満了に伴い、1 名減員となった。相談業務休止中につき相談員は不在。

スタッフ数：6 名（2016 年 3 月現在）

（内訳：管理職 1、専任職員 2、常勤嘱託 1、非常勤嘱託 1、派遣 1）

10) 男女共同参画に必要な各種調査の実施

- ① 他大学・学外機関からの調査等について、以下のとおり協力した。

○学外からの調査依頼等

依頼月	依頼機関	調査内容
2015/07	日本私立学校・共済事業団	私立大学等経常費補助金（特別補助第 1 回調査分）に係る調査
2015/09	日経グローバル	「大学の地域貢献度に関する全国調査 2015」
2016/01	お茶の水女子大学	お茶大インデックス「女性が働きやすい雇用環境を構築するためのチェック 50」
2016/01	株式会社政策研究所政策科学部（調査主体：文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課）	「社会参画につながる女性の学びの促進に関する調査研究」に関するアンケート調査

11) 男女共同参画の進捗状況の周知

- ① 本学における男女共同参画推進の取り組みへの意識啓発を主な目的としたリーフレットを新規に作成し、専任教職員への配付を行った。今後、教職員の研修、授業、国内外における交流において活用していく。また、ポスターを新規に発行し、学内各所に掲示した。

○リーフレット

タイトル	発行年月	発行部数	配布対象
リーフレット 「早稲田大学におけるダイバーシティ・男女共同参画の推進」	2016/03	16,000部	専任教職員
ポスター 「Respect each other Respect diversity and equality」	2016/03	250部	—

- ② 2009年3月に創刊したニューズレターについて、引き続き、2015年10月に第14号を発行、さらに、2016年3月発行の第15号の校正編集作業を実施した。

○ニューズレター

タイトル	発行年月	発行部数	配布対象
さんかくニュースNo.14	2015/10	25,000部	全ての教職員(非常勤・派遣も含む)・大学院学生、希望する学部学生
さんかくニュースNo.15	2016/03	25,000部	

- ③ ウェブサイトによる情報発信の充実を図るため、男女共同参画推進に関連する学内外の情報を、ニュース・イベントとして速やかに掲出した。

- ④ 既存の学内広報物に、適宜、記事・話題を提供した。

○『早稲田大学キャンパスハンドブック 2016』(学生部発行)

- ・男女共同参画推進室

(ワークライフバランス・サポートセンター/ 主なサポート内容)

○『2016年度留学生ハンドブック』(留学センター発行)

- ・21. 授乳・搾乳室
- ・28. 大学の取り組み」－男女共同参画の推進

○『みらい設計ハンドブック 2016』(キャリアセンター発行)

- ・必ず見つかる「成長の場所」学内プログラム一覧
(ワークライフバランス関連講座)

○『理工の達人 2016』(理工学術院統合事務・技術センター技術部技術企画総務課発行)

- ・男女共同参画推進室 ワークライフバランス・サポートセンター

○『早稲田ウィークリー』2015.6.8 第1368号(早稲田大学学生部)

- ・学生応援宣言

以上